

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年11月17日

【評価実施概要】

事業所番号	1070501083
法人名	特定非営利活動法人 ひまわりの家
事業所名	グループホーム すまいる
所在地	群馬県太田市飯田町631番地 (電話) 0276-46-5210
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-5
訪問調査日	平成19年11月 7日

【情報提供票より】(平成19年10月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成17年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	2 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 6, 7

(2) 建物概要

建物構造	(鉄骨) 造り
	3 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(200,000 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (10月15日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名		
要介護3	名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 82 歳	最低	70 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	竹内医院 永倉歯科医院 介護老人保健施設藤阿久光荘
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームの運営理念は『個性を尊重し、お互いの信頼関係を築き、日々穏やかに過ごせるよう支援いたします』と掲げてある。管理者と職員は理念を共有し、利用者が日々穏やかに利用者一人ひとりが自分の力量を発揮し、楽しみのある生活と生活にメリハリのある暮らしが送れるよう熱意を持って支援をしている。このことは利用者の表情や言動から感じることができた。管理者と職員は地域密着型サービスを理解し、地域との関係性をより構築することができるよう、日々利用者と一緒に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>介護計画の見直し期間は6ヶ月から3ヶ月に変更と状態の変化に応じての見直しもなされている。職員会議は全員の参加の下で開催をするようにしている。ヒヤリハットは作成し活用しており、事故報告書はこれから作成する予定であって作成されていない。苦情、相談の明示は重要事項内になされている。また、意見箱の設置がされているが担当者の掲示がされていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は管理者と職員全員で取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>事業所の活動状況を報告し意見や要望を聞いている。利用者の生活状態や食事を試食してもらい感想を聞いたり、救急救命講習を参加者と職員が受けたりしている。家族からは事業所に対して協力をしたいとの意見が出ている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会を定期的に行うことや家族に運営推進会議にも参加してもらい意見や要望を聞いている。家族の来訪時に日頃の暮らしぶりをこと細かく報告し、また玄関に意見箱を設置する等をして意見や要望を聞き運営に反映をさせるようにしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩時に近隣者と挨拶を交わす、地域の保育園との交流、祭り、道路清掃、作品展に出品(利用者が作った物)、地域の独居老人に作品を配布するなど、地域との交流を積極的に図っている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念は開設時のものであって、地域密着型サービスとしての事業所独自の理念の見直しはしていない。	○	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、地域を意識した事業所独自の運営理念を職員全員で話し合う取り組みをしてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の申し送りや職員会議、関わりの振り返り時に理念に触れ、職員全員で確認し合うようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩時に近隣者と挨拶を交わし、地域の保育園との交流や地域の祭り、道路清掃に参加している。作品展(利用者が作った作品)に出品したり、独居老人に作品の配布をするなど、地域との交流を積極的に図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、全員で自己評価に取り組んでいる。また、外部評価の結果を踏まえ、介護計画の見直しやマニュアル作成、ヒヤリハット等について改善をしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的(3ヶ月に1度)に開催しており、事業所から活動状況を報告し意見や要望を聞いている。利用者の生活状態や食事を食べてもらい感想を聞いたり、救急救命講習を参加者と職員が一緒に受けたりしている。家族からは事業所に対して協力をしたいとの意見等が出されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人代表者や計画作成担当者が市との連携を図っている。運営推進会議に参加をしてもらい働きかけを行い、今後参加をしてもらえる方向になった。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族会が結成されており定期的に開催され、意見や要望を聞いている。家族の来訪時には居室担当者から日頃の暮らしぶりをこと細かく報告するようにしている。また、電話でも報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議等で意見や要望を聞いている。また、意見箱の設置や家族との信頼関係を築き、常に話し合いを行なうことを心がけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は利用者・家族への信頼関係を築くためにも、馴染みの職員が対応することが重要と考えており、職員を固定化し、顔馴染みの職員によるケアを心がけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設見学や事業所内の研修会・外部研修に参加し報告を行い、職員間で共有されているが、研修参加が少ないと思われる。	○	限られた職員数での研修参加は現状では厳しいことを理解しているが、職員の経験年数に応じた研修に参加できる機会を増やし、研修後は報告を行い、共有し、よりレベルアップを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交換研修や施設見学等の機会を持ち、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族に見学をしてもらっている、体操やレクリエーションに参加してもらい、職員と利用者との交流を図り、馴染めるようにしている。また、在宅訪問し馴染みの関係作りも行なっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	親しい中でも一線を越えないように、お互いに感謝の言葉を添える関係を築き、日常生活の中で支え合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で利用者の表情や行動、会話から思いや希望を把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃のかかわりの中で、利用者・家族の思いや意向を聞き、職員の気づきや情報を反映させ現状に即した介護計画を作成をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的見直し(3ヶ月)以前に利用者の状態の変化が生じた場合にカンファレンスを行い見直しを行っている。安定している利用者の方は定期的見直し期間となっている。	○	利用者の状態が安定している場合も、本人・家族の思いや意向を確認し、職員の気づきや情報を基に話し合い、現状とのずれはないかを評価するためにも、モニタリングは月に1回程度は行い、現状に即した介護計画の見直しが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。また、受診や通院は家族がすることになっているが、希望に応じて柔軟に支援をしている。受診結果は家族に報告をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、事業所の方針の説明を行い、家族との話し合いを行って介護老人施設に申し込んでもらっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の自尊心を傷つけない環境への配慮や言葉かけや対応で利用者の誇りやプライバシーを損ねないようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応し、利用者のペースに添って支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物の希望を聞く、買い物に行く、準備、配膳、下膳等を利用者と職員が共に行いながら、食事に関する一連の過程で利用者の力を発揮してもらっているが、利用者と職員は食事を一緒に食べていない。	○	食事に関する一連の過程で、利用者の力量を発揮してもらい関わりを職員は行っているので、テーブルを囲んで食事を共に楽しめる雰囲気作りをしてほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が一方的に決めずに利用者の希望やタイミングに合わせた支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の力量に応じて(食事の準備、テーブルを拭く、掃除、洗濯物をたたむ、お絞りを巻く等)発揮してもらっている。外食や花見、誕生日会等の楽しみも支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、庭の草むしり、花の手入れ等で、外気に触れる機会を多くするようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施設の玄関が国道に面し、安全確保のために家族に説明して鍵をかけている。	○	国道に面して交通量も多いことは理解できるが、職員の見守りの方法や利用者一人ひとりのその日の状態に合わせて、日中は玄関の鍵をかけることを常態化しない方法を期待する。安全確保を行ないながら短時間から鍵をかけずに、自由な暮らしを支援する検討をされてはいかかか。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回利用者と職員は避難訓練を行っている。昼と夜間想定を交互に実施している。近隣者に協力依頼をしている。	○	事業所の近隣者には災害時の協力依頼はしているが、協力依頼の拡大を運営推進会議等で行なってほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表を作成し摂取量・水分量を記録し、職員が情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然光が多く注がれ、季節の花が飾られ、玄関先にも花が植えられており、ホールからは洗濯物が干されている。食事の準備や匂いが漂う家庭的な環境で居心地の良さがある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや箆笥、好きなぬいぐるみ、衣装箱等の使い慣れた物や見慣れたものが持ち込まれている。		